

## 第3回シンポジウム

# これからの地域防災の知恵～『温故創新』

気候変動による激甚化、頻発化する水害、切迫する巨大地震に対し「温故創新」の発想が必要な時代である。戦後一貫してインフラが整備され、河川整備水準が向上し、水害リスクは減少した。しかし今後の気候変動では、この傾向が反転する可能性がある。水害の外力増大に河川整備の水準が追い付かない、河川整備水準と水害外力の関係が昔の状態に戻る可能性がある。都市が自然の外力に対して劣勢になる時代が到来しつつある。古（いにしえ）を振り返れば、水害に対応した街づくりの工夫がみられる。例えば、集落を堤防で囲む木曾三川の「輪中」、石垣や盛土の上に建てられた水害時の避難小屋となる濃尾平野の「水屋」、盛り土された敷地が洪水流に向かって船首のような形状になっている大井川流域の「舟形屋敷」がある。いずれも洪水が発生することを前提とし、被害をできる限り低減させる各地の工夫であり、災害を「受け流す」発想といえる。自然の外力が増大する中、いまいちど先人が培った知恵を発掘し、「温故」として学び直すことが重要である。その上で、未来に向けて現在の最新技術を加えた新たな暮らし方住まい方を考案し定着させていく、即ち「創新」を進め、大災害の時代に対応しうる社会を実現していく必要がある。本シンポジウムでは、温故創新の発想に基づく地域防災のあり方と先進事例について、最新の知見を踏まえてディスカッションします。ぜひご参加ください。

【日時】 令和3年9月23日(木・祝) 14時～16時40分 【参加費】 無料

【参加】 会場：御茶ノ水ソラシティ(先着50名) \*要事前申込

オンライン・ライブ配信：シンポジウム当日配信 \*要事前申込

【申込】 <https://www.event-form.jp/event/21198/0AjuoVCA/>から登録

【主催】 (一社)令和防災研究所 【共催】 (特活)日本防災士機構



### 【プログラム】

14:00 開会 (第1部) 基調講演・発表

基調講演 加藤孝明(東京大学教授) 「これからの地域防災の知恵～『温故創新』」

発表 中林啓修(国士舘大学准教授) 「『温故創新』から考えること」

早坂義弘(東京都議会議員) 「首都直下地震の発災前に」

玉田太郎(防災士研修センター代表取締役) 「ホームサバイバル・トライアル」

15:40 (第2部) パネルディスカッション

コーディネータ 青山 侑(明治大学名誉教授・元東京都副知事)

パネリスト 加藤孝明(東京大学教授)、中林啓修(国士舘大学准教授)、廣井 悠(東京大学准教授)

橋本 茂(日本防災士機構理事・事務総長)、早坂義弘(東京都議会議員)

玉田太郎(防災士研修センター代表取締役)

16:40 閉会 \*発表タイトル及び登壇者は変更となることがあります。